

一般社団法人湿原研究所主催

## 第 29 回 柏林講座 「北海道の湿原の水環境と植物」

- 講師 矢崎友嗣 / (株)大樹農社勤務、一般社団法人湿原研究所 常勤研究員
- 日時 2013 年 11 月 7 日(木曜日)  
午後 6 時 30 分より 午後 8 時まで
- 場所 大樹町生涯学習センター 1 階 いきがい活動室 2

- テーマ 「北海道の湿原の水環境と植物  
—歴史や地域性と酪農排水問題—」

湿原研究所の矢崎研究員が北海道の湿原の水環境と植物について紹介します。

- 1 湿原の水環境と植生
- 2 北海道の湿原—現状と地域性—
- 3 北海道湖水地方の湿原
- 4 酪農排水と湿原の富栄養化

北海道には日本全国の湿原面積の 80%が集中し、広大な湿原が多く残されています。その湿原の水環境は気候や地質の影響を受けるため、地域によって景観が異なります。ここでは、北海道の湿原の特徴と現状と地域性を紹介し、北海道湖水地方の湿原の特徴を紹介します。

湿原の植物は、水環境や栄養環境に影響を受けて生育し、種間競争の結果、分布する植物が決まります。しかし、酪農由来の窒素やリン(栄養塩)に富む水が河川へ流入することにより引き起こされる富栄養化は、湿原植生を変容させることが懸念されています。酪農地帯で、湿原の持つ生物多様性などの多面的機能を保全するためには、どのようにすればよいか・・・最後に、湿原研究所と、(株)大樹農社が連携した、酪農排水の影響軽減のための研究を紹介します。

### ■ 参考資料

辻井達一・橘ヒサ子(編著) 北海道の湿原と植物、北海道大学図書刊行会

- 参加費 会員 無料 (非会員 300 円)

### 参加申込み

info@wetlands.jp または fax: 01558-7-7550 一般社団法人湿原研究所  
参加申し込みは 11 月 5 日(火) まで

◇本講座は「北海道 e 水プロジェクト」の支援を受けて実施します◇